

平成16年度 高冷地水稻生育速報(第8報)

中山間農業技術研究所

1. 生育概況(8月2日)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	94.8	504	4.1	35.4	-
コシヒカリ	本年	93.6	535	5.0	35.9	-

栽培条件: 移植5月18日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a

2. 出穂状況(8月2日)

品種名	本年	前年	平年	
ひとめぼれ	8月2日	8月5日	8月4日	平年より2日早い
コシヒカリ	-	8月12日	8月8日	-
たかやまもち	7月29日	7月30日	7月29日	平年並み
ひだほまれ	8月1日	8月4日	8月2日	平年より1日早い

栽培条件: 移植5月18日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a
 平年: 過去7年間から最大値の年と最小値の年を除いた5年の平均値

3. 生育状況と当面の管理

1) 生育状況

草丈は、各品種で平年より高くなっていると思われる。特にコシヒカリでは、倒伏につながる危険があるので注意が必要である。

コシヒカリを除く各品種で出穂期を向かえているが、出穂始め(走り穂)が平年に比べ早かったものの、出穂期は「平年並み」~「2日早い」にとどまっている。また、全体として穂揃いまでに平年より日数を要しているため、収穫適期を見極めるためにも各ほ場の出穂期を正確に判断する必要がある。

2) 病虫害等の発生状況

ほ場内で斑点米の原因となるカメムシ類を見受けることが多くなった。今後もカメムシ類は増加が予想され、斑点米の発生が懸念される。また、降雨がないにもかかわらず葉いもちが発生し続けており注意が必要である。

3) 今後の管理

出穂前後には水を切らさぬよう管理する。

今後、高温で推移すれば成熟期(収穫適期)も早まるので、高温時における積算温度をシミュレートして適期の収穫を計画したい。

カメムシ類とイモチ病については、各ほ場の発生状況に留意し適切な防除を実施すること。

4) その他

大豆が開花期を迎えたが、干害が懸念される。対策として畝間灌水をおこなうと良い。

< 参考 > 前回(7月27日)の生育概況

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	84.1 (111%)	504 (99%)	4.6 (+0.1)	36.6 (+1.9)	-
	前年	70.0	463	4.5	32.5	-
	平年	76.0	510	4.5	34.7	-
コシヒカリ	本年	86.9 (108%)	535 (106%)	4.5 (+0.4)	37.9 (+4.6)	-
	前年	74.7	414	4.0	33.4	-
	平年	80.7	506	4.1	33.3	-
たかやまもち	本年	-	-	5.2 (+0.1)	40.6 (+2.7)	-
	前年	-	-	4.9	36.9	-
	平年	-	-	5.1	37.9	-
ひだほまれ	本年	86.3 (105%)	350 (98%)	4.1 (-0.7)	34.4 (-2.7)	-
	前年	81.0	331	4.5	34.9	-
	平年	82.2	356	4.8	37.1	-

中山間農業技術研究所
 TEL 0577-73-2029
 FAX 0577-73-2751